

2020/11/18-2

(うと Q 世話し それだけはお忘れになりませぬように)

物事は何でも自発的でないと楽しくもないし、面白くもありません。身にも付きませんし、工夫も生まれません。

自発的でない「チャレンジ」を他から求められた場合、それは殆ど「拷問」

「やらなきゃならないってさ」と「よし、やるぞ」では全然違います。

経営者の仕事は「チャレンジ」を従業員に求めるのではなく

「よし、いっちょ、やったろかいな」

という気分を従業員に興してもらおう事でしょう。

例えば cost down をするにしても

「それじゃないと売れないと言われたから」

と、八つ当たりに業者叩きをするのではなく

「これはぜひみんなに使ってもらいたいから、何としても手頃な価格に納めたい」

を起点にして、同じ効果にだけ着目し、同じくその効用を満たす全く違ったシステムを見出したりする自ら工夫するとか。

そうすれば仕事は創造的になります。

その創造の楽しみを伝えるのも経営者の仕事ではないでしょうか。

仕事でも何でもそうですが、楽しくもなく面白くもなければ続きません。

面白くて楽しいから続けられるのです。

特に状況が悪く苦しいときには猶更です。

楽しさ面白さが苦しみを和らげます。

「仕事は厳しく、苦しいものだ」

等と「したり顔」で部下に訓示を垂れている上司を自分は全く信じません。

出入りの業者で我が国に帰化した中国人先生も言うておりました

「その商売が楽しくなくなったら儲かっていてもやめた方がいい」

と。

仕事は正規であれば 1 日最低 8 時間は拘束される訳です。1 日の 8 時間もが真っ暗な気持ちでどうするのでしょうか？

それを正しい認識だと言い、それができないと「認識が甘い」というのは完全な間違いです。

矢張「楽しく面白く感じられる」仕事をすべきです。

その代わりそれと引き換えに

「給料が安くても」是非ともやってみたい

というカッコの中の但し書きは付きます。その但し書きを受け入れる覚悟は必要になります。世の中に 100%自分に好都合な満願成就是存在しません。全ては先様半分、手前半分、何であれ「条件はつきもの」です。

50:50 でセンターに歩み寄る姿をイメージした方がよいと思います。

というのも、仮に 100%が成立したとした場合、それは「独善」か「専横専制」即ち「独裁」に似たようなものになってしまうからです。これには注意が必要です。イメージゴールとして 100%get（独り勝ち）を求めてはいけない気がします。それだけはお忘れになりませぬように。